

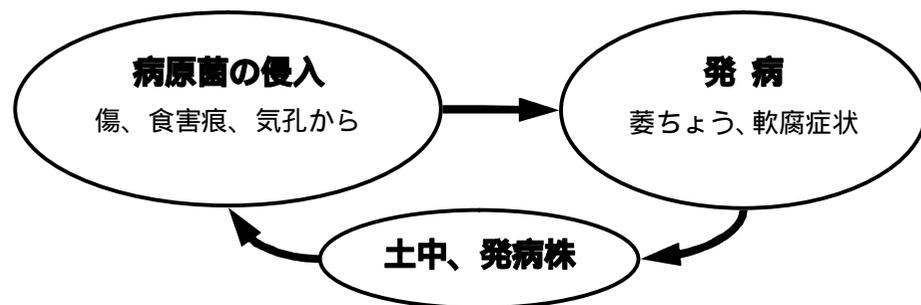
今月のトピックス 「ハクサイ軟腐病について」

1) どんな病気？

病原菌は *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora* です。この細菌による病気はアブラナ科、ナス科、ユリ科、セリ科など 60 種以上の植物で報告されており、アブラナ科の野菜では軟腐病と呼ばれます。腐敗して独特の悪臭を発します。

ハクサイでは、はじめ地際の葉や葉柄に水浸状の病斑が現れ、外側の葉から水分を失って萎ちようしたり半透明になり、ついには株全体が軟化腐敗して、たやすく引き抜けるようになります。出荷後や家庭で病気が進展して腐り、苦情を受けることもあります。

2) 伝染経路は？



3) 発生の条件は？

病原細菌は乾燥に弱く、地表を流れる雨水で広がるので、低湿地に被害が多くなります。

高温、多湿の時に発生しやすいので、夏季高温時(8~9月)に播種する作型や秋季温暖の年に発生が多くなります。

窒素過多で軟弱に育つと発生が多くなります。

傷口からの侵入が多いので、台風などがあると発病が多くなります。

4) 対策は？

土壌伝染性の細菌病であって、病原細菌は畑にいつも生息していると考えて対策を講じます。

完全な抵抗性の品種はないので、本病に強いとされる品種を選定します。病原細菌の密度を減らすため、イネ科、マメ科作物との輪作をします。

被害株の残渣は伝染源となるので、集めて畑の外へ持ち出し処分します。畑の土壌水分が多いと被害が大きくなるので、排水をよくします。

防除作業や中耕作業の際に葉を傷つけると、病原細菌が侵入し発生を助長するので注意します。

薬剤散布は、生育後期(結球始め)から予防に重点をおいて実施し、台風直後には薬剤散布を行います。



被害の様子 (外葉の萎ちよう)



(株元の腐敗)